松本深志高等学校音楽部

志音会 第17回演奏会

Program

〈 管弦楽 〉
L.v.ベートーヴェン 『エグモント』序曲 作品84

〈 合唱と管弦楽 〉
J.ブラームス 『ドイツ・レクイエム』 作品45

入場料
1,500円
（全席自由）

◆ 指　揮：横島勝人
◆ バリトン：山下浩司
◆ ソプラノ：岩崎　香
◆ 管 弦 楽：志音会オーケストラ
◆ 合　唱：志音会合唱団

〈プレイガイド〉
◆ ミュージックプラザ・オグチ

2025年 3/16(日)

開演 14:00
開場 13:30

まつもと市民芸術館 主ホール

主催：松本深志高等学校音楽部志音会

後援：松本市／松本市教育委員会／松本深志高等学校同窓会／信濃毎日新聞社／市民タイムス
MGプレス／NHK長野放送局／SBC信越放送／NBS長野放送
abn長野朝日放送／TSBテレビ信州／テレビ松本／長野県合唱連盟／中信合唱連盟

お問い合わせ → 090-1030-0874 杉山 敦

Profile
プロフィール

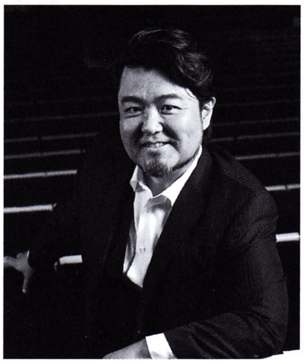
Conductor 指揮 横島勝人

YOKOSHIMA Katsuto

大阪・高槻市出身。大阪音楽大学在学中より、高槻市音楽団などで指揮活動を展開し、1990年から7年間に亘ってウィーンへ留学。98年にキリル・コンドラシン国際指揮者コンクールでベスト8に選ばれ、翌99年、ウィーン楽友協会ホールでのトーンキュンストラー交響楽団との演奏会において、ベートーヴェン交響曲第9番を指揮してウィーンデビューを果たした。2000年に小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトⅠ、さらにⅡ、Ⅲ、で、アシスタント及び合唱指揮を務める。06年には、ウィーンとプラハでモーツァルト生誕250年「レクイエム・ガラ」特別演奏会でタクトを振り、絶賛を博した。09年、11年、15年、ベルリン、プラハ、ローマの「国境なき合唱団&ベルリン・シンフォニエッタ」チャリティー公演等で、ベートーヴェン「第九」を指揮している。ダイナミックさと繊細さを併せ持つ横島の指揮は、聴く者を、音楽そのものが持つ深い感動へと導く。温厚な人柄と情熱的かつ的確な指示によって、奏者の力量を引き出し、やがて聴衆と渾然一体化するその音楽は、多くの奏者・聴衆から熱い支持を得ている。現在、横島は、地域から普遍的・国際的な音楽を発信する活動にも力を注いでおり、08年には、松本市で、モーツァルトの交響曲全52曲を10年かけて演奏する「モーツァルト交響曲・全曲演奏会」の芸術監督就任。さらに温泉地・宇奈月の「湯の街ふれあい音楽祭モーツァルト@宇奈月」の芸術監督にも就任し、さまざまなかたちで音楽を楽しむ新しい音楽祭を目指している。理想は、ウィーンのように、地域全体が音楽を支え、楽しむ場となること。また、若手を含む音楽家の自立および団結を目的とする組織を立ち上げ、活動を展開中である。

（文／高橋彩子）

Baritone バリトン 山下浩司



YAMASHITA Koji

山梨県笛吹市出身。国立音楽大学卒業。同大学大学院歌曲専攻修了。その後ザルツブルク及び、ウィーン国立音楽大学にて研鑽を積む。2014年度は国立音楽大学長期国外研究員として一年間ニューヨークで研究活動をした。オペラでは東京二期会、サイトウキネン・フェスティバル松本、まつもと市民オペラ、小澤征爾音楽塾プロジェクト特別演奏会、東京のオペラの森、東京・春・音楽祭、新国立劇場、日生劇場・ニッセイオペラ、びわ湖ホール・プロデュースオペラ、全国共同制作オペラ等、次々と注目の公演に出演を重ねる。また、ベートーヴェン「第九交響曲」、モーツァルト及びフォーレ「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、J.S.バッハの受難曲をはじめとする数々の宗教曲およびコンサートのソリストとしても全国各地で活躍している。2025年も多くのオペラに出演予定。
国立音楽大学教授。二期会会員。

Soprano ソプラノ 岩崎 香

IWASAKI Kaori

洗足学園音楽大学卒業、同大学院を首席で修了後、アメリカに渡りNYのマネス音楽院で研鑽を積む。これまでにベートーヴェン交響曲第九番ソプラノソリスト、《フィガロの結婚》スザンナ、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ、《魔笛》パミーナ、《愛の妙薬》アディーナ、《椿姫》ヴィオレッタ、《カルメン》ミカエラ、《内気な二人》マリウッチャ、《修道女アンジェリカ》ジェノヴィエッファ、木下牧子《不思議の国のアリス》アリス等で出演、幅広いレパートリーを持つ。また、NY国連でのコンサートやレジーナオペラカンパニー（NY）、ベルカントオペラフェスティバルインジャパン（東京）、モレリア国際サマーオペラフェスティバル（メキシコ）、モンテフェルトロ・フェスティバル（イタリア）に参加。
横浜シティオペラ、二期会各会員。

Shionkai 志音会

1952年、「深志と音楽を志す者のグループ」との意を込め「志音会」と命名、設立された。会員はプロの音楽家を含む松本深志高等学校音楽部の卒業生及び音楽部在籍者約900名で構成され、さらに現在では吹奏楽部OB、志を同じくする卒業生及び一般の音楽愛好家も参加し、「合唱団」と「オーケストラ」を擁し、会員相互の親睦を深めるとともに「音楽を志す」ため定期的な演奏会開催を目指して活動している。
1996年の母校創立120周年記念演奏会は、指揮者、ソリスト全員、合唱・オーケストラメンバーの多くを会員で構成し、ベートーヴェン作曲交響曲第九番、他、を演奏し、それが現在の活動の基となった。
その後も母校創立130周年・140周年、志音会創立60周年・70周年の記念演奏会（第16回）など、2年に1回の演奏会を重ね、今回が17回目の演奏会となる。